

「スマートウェルネスあさひかわプラン（案）」にお寄せいただいた意見と旭川市の考え方

資料2（別紙）

○意見提出手続の期間：令和5年5月8日（月）から令和5年6月8日（木）まで

○意見提出者及び意見数：6人（個人5，団体1）から15件

※御意見につきましては、一部読みやすくするために要約・修正等を行っています。また、意見の内容ごとに整理しています。

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
1	<p>目指す姿として「健幸福祉都市」の実現としていますが、この記述は削除すべきです。誤解を招きかねないと思いますし説明できません。一般的に市民が「福祉」という言葉をどう捉えるかは、前提が必要です。この場合は「福祉サービス」としての「受け手」と捉えられるかも知れません。結果的に「公的なサービスにより生活をより良くしていくもの」となる可能性も生じます。したがって、前提となる条件・説明が必要だと感じました。その点で、SmartWellnessCity首長研究会・発起人会協働宣言を引用するならば「市民誰もが参加し、生活習慣病予防及び寝たきり予防を可能とするまちづくりを目指す。」と書かれています。</p> <p>平成23年12月の「スマートウェルネスシティ総合特区地域活性化方針」にも「健康づくりの無関心層を含む住民の行動変容を促し、高齢化・人口減少が進んでも持続可能な先進予防型社会を創り、高齢化・人口減少社会の進展による地域活力の沈下を防ぎ、もって、地域活性化に貢献することを目標とする。」と目標を示しています。</p>	<p>健幸福祉都市の実現に向けては、本プランのみで実現するものではなく、様々な計画に基づく取組を通して実現するものであると認識しておりますことから、御意見の内容については、本プランの推進に当たっての参考とさせていただきますとともに、関係部局の所管する各種計画や取組とも連携を図りながら進めてまいります。</p>
2	<p>プランの位置付けは、スマートウェルネスシティを目指すものとして位置付けるのか、単なるスマートウェルネスだけのプランとして位置付けるかによってここに書かれている図も大きく変わると思います。</p> <p>筑波大学大学院 人間総合研究科スポーツ医学専攻 教授 久野譜也先生の「人口減・高齢化社会の処方箋としてのSmartWellnessCity」の中では、「なぜ、まちづくりなのか」について詳しく書かれています。スマートウェルネスシティを目指すものとして位置付けると、旭川市の第8次総合計画は勿論ですが、旭川市立地適正化計画を中心とする都市計画なども関わってきます。さらには公共施設等総合管理計画も無視できません。</p>	

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
3	策定の背景はそれなりとしても、だから実効性のあるアクションプランを策定するとはならないでしょう。何を実行するかも定かではないように感じます。	本プランは健康づくりに焦点化したアクションプランであることから、健康増進法に基づく、健康増進計画に当たる健康日本21旭川計画とも調和を図り、健康寿命の延伸を目指してまいります。
4	健康日本21との関係を敢えて書く必要があるでしょうか。ある意味全く別次元のプランを考えるのではないですか。調和など必要ないでしょう。だから地域住民全体へ働きかけることで、地域全体のリスクを低減する取組（ポピュレーションアプローチ）を活用となるのだと思います。	
5	第3章については全編再検討されてはいかがでしょうか。市政アドバイザーとして元厚生労働省健康局長で医師の宇都宮啓氏にいただいているので、再検討期間があった方がよいのではないのでしょうか。市政アドバイザーを交えての庁内会議及び「プラン」懇談会を開催するなど、延期とすべきではないのでしょうか。	本プランの策定に当たっては、庁内会議のほか様々な関係団体等からも御意見をいただいておりますことから策定期間の延期は困難ではありますが、今後、プランの推進に当たっては、市政アドバイザー等の助言などをいただきながら進めてまいります。
6	～ひと・暮らし・まち～健幸づくりについて 障害当事者・家族も高齢が増加しております。 特に精神障害者は持続が苦手です。 運動プランの時間・事例の多様化を考えて欲しいです。	いただいた御意見につきましては、本プランにおける各種取組が、障がいのある方や高齢者など、あらゆる人にとって参加しやすいものとなるよう、今後の事業構築に当たっての参考とさせていただきます。

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
7	<p>○ 健康は、本人、家族の幸せのみならず、医療費や介護費の負担減にも資するため、積極的かつ継続的に大胆な予算措置を講ずるべき。</p> <p>○ 健康の維持増進、回復には身近な施設やプログラムなどが必要。</p> <p>○ 身近な施設としては、</p> <p>① ウォーキングやジョギングのルートの整備（堤防や広めの歩道に100mごとに道しるべを設置、ルートの除雪の実施など）</p> <p>② 地区ごとに温水プール、スタジオ、ジム付きのスポーツセンターを整備（江東区では民間施設以外に区営が5か所ある）。プールの設置については、学校のプールの活用も考えられる。</p> <p>○ プログラムとしては、</p> <p>① 記録会や大会などのイベントの開催（気運の醸成）</p> <p>② 健康診断結果やスポーツ継続日数などで個人・団体表彰（個人のやる気盛り上げ）</p> <p>③ インストラクターや相談員の養成、委任</p> <p>○ その他として、</p> <p>① エアロバイク、ウォーキング用ストックなど健康器具の貸付や購入助成。</p> <p>② スポセンの施設利用料の低廉化（近文のプールは70歳未満は高い）</p> <p>③ スポセンまでのアクセスの向上（マイクロバスなどで周遊バスの運行など）</p> <p>④ 民間スポーツクラブの設置促進、利用促進（新設や利用料低減のための減税や助成など）</p>	<p>本プランは健康づくりにつながる行動を日常生活の中に取り入れることができるよう、誰もが気軽に取り組むことができる「歩く」ことを始めとした活動量を増やすことや活動範囲を広げることを意識した事業展開を進めてまいります。</p> <p>「気運の醸成」や「個人のやる気の盛り上げ」については、本プランにおけるイベントの開催やインセンティブを付与するなど取組を推進する際の参考とさせていただきます。</p> <p>スポーツ施設及びスポーツ環境の整備等に関する内容につきましては、参考意見とさせていただきます、関係部局と共有してまいります。</p>

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
8	<p>車社会が主流の北海道，冬季長期間の低温と積雪の環境から，若者から高齢者まで屋外での運動減少に陥りやすい本市において，歩行をきっかけに活動を広げ，健幸を目指す取り組みは意義深いと考えます。</p> <p>永山でも2021年度に永山健康マイレージ事業があり，冬季運動不足解消のための商業施設内歩行プログラムの企画検討に参加させていただきました。この際に，地域住民への周知と参加の動機づけ，新規参加者の拡大が課題となりました。今回はスマホアプリの活用があるとのことですので，商業施設ウォーキングイベント時に下記を入れてはどうかと思います。</p> <p>1. 商業施設のバックアップを図る</p> <p>例えばイオンならROUTYという健康アプリがあり，この商業施設の情報収集源になります。</p> <p>市の開発アプリの他，他のアプリ利用でも参加できると，店内放送や広報協力が得られやすいのではないかと思います。</p> <p>2. その場ですぐリターン</p> <p>景品利用の場合，累積ポイントによる付与もありますが，動機づけには達成するとその場ですぐもらえるものもあると思います。例えば「本日限定！QRコードでダウンロードし，1時間以内に〇〇歩行した方に△△をサービスカウンターにて進呈！」のような。限定されると『そのうち…』の先延ばしを防ぎ，行動に移しやすいのではないかと思います。</p> <p>3. 一緒に参加でポイント〇倍！</p> <p>永山でも口コミは新規参加のきっかけになっていました。そこで，既に参加している人が他の人と参加すると双方にメリットがある仕組みがあると思います。</p>	<p>いただいた御意見につきましては，本プランにおける取組の推進に当たり参考とさせていただきます。</p>
9	<p>記載内容について，「超高齢社会が目前に迫る本市の」，「本市は，全国，全道を上回る高齢化の進行」，高齢化率は46.9%と記載されており，今一度「高齢化」「高齢」「超高齢」などの定義も含め統一した見解が必要かと思えます。</p>	<p>御意見を踏まえ，「高齢化」に係る記述の一部を修正いたしました。</p>

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
10	<p>名称で「ウエルネス」と「健幸」について説明していますが、とても重要だと感じました。「ウエルネス」については従来の健康のどこを広くとらえたのか説明されていませんし、比較する必要はないと思います。したがってSmartWellnessCity首長研究会・発起人会共同宣言において説明されている「ウエルネス＝健幸：個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできる」と素直に書く方が良いかと感じました。</p>	<p>「ウエルネス」は、1961年に米国のハルバート・ダン博士が提唱した概念であり、その概念について記載した文章としていますが、いただいた御意見を踏まえ、説明を追加いたしました。</p>
11	<p>現状と課題の(1)人口の推計は文章も図もこの通りで理解しますが、旭川市の他の計画等では人口に関しては「旭川市人口ビジョン【改訂版】」を用いています。勿論社人研推計でも構わないのですが、庁内での理解はいかがなのかと感じました。</p> <p>また、(2)要介護等認定者・認定率の推移について厚労省の年報を使用しています。旭川市保健所が毎年発行している「旭川市保健衛生年報」からのデータで作図されないのか違和感を感じます。</p>	<p>各計画で使用する統計データについては、使用する統計データによって結果や考察が異なる場合には、留意してまいります。</p> <p>また、(2)要介護等認定者・認定率の推移については、北海道や全国と比較するため、厚生労働省の統計データを用いています。</p>
12	<p>(3)通いの場の推移について、下段注釈では「通いの場」を定義しています。旭川市では、600箇所近くあり8,619人の参加者だと受け取れます。多いか少ないかは別としても、第3章の共通方針などにもKPIすら見当たりません。</p>	<p>本プランにおける指標は、個別の取組には設定せず、取組の結果として、健康だと感じている市民、健康のために何か取り組んでいる市民、暮らしやすいまちだと感じている市民の割合を指標としております。</p> <p>御意見をいただきました「通いの場」につきましては、高齢者の健幸づくりを推進していくため「くらしの健幸づくり」において、通いの場の支援に取り組むこととしておりますので、御意見につきましては、関係部局と共有させていただきます。</p>
13	<p>全体の図の掲載に関して、文章ではどこから引用あるいはそのまま載せたりされているかと思いますが、図の下段に「出典」とか「引用」とか出所を明記すべきだと思います。</p>	<p>「出典」「引用」があるものについては、下段に記載し、記載がないものは、本プランにおいて作成した図等になります。</p>

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
14	<p>1. ヘルスケア（健康管理）への興味・関心の向上 市民生活のあらゆる場面において健康に関する情報等にアクセスできる機会の充実を図ることで、ヘルスケアへの興味や関心の向上を目指す。</p> <p>3.健康増進活動，「歩く」ことの促進 企業等と連携し，健康増進活動にインセンティブを付与する等，健康増進に興味関心がない人であっても身体を動かす，歩くなど，活動量を増やすことに楽しく取り組めるよう支援を行う。</p> <p>4. 地域での健幸づくりの機会の充実 身近な地域で健幸づくりに取り組めるように，各種団体等と連携した地域での取組や介護予防に取り組む住民主体の通いの場を支援する。</p> <p>6.人との交流や支え合いによる生きがいづくり 地域における人との交流や活躍できる機会の創出を通して，生きがいあふれる豊かな心の育成に取り組む。</p> <p>7. 季節を問わずに健幸づくり活動，「歩く」ことに取り組めるまちづくりの推進 通年で利用できる施設等の周知・利用促進を図るとともに，冬期間においても活動量が低下することなく，年間を通じて歩くこと等の健康増進活動や健幸づくりに取り組めるまちを目指す。</p>	<p>御意見は「スマートウェルネスあさひかわプラン（案）」で示した内容と概ね同じであり，同案に御賛同いただいたものと考えます。</p>

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
15	<p>2. ライフステージに応じた健幸づくり あらゆる世代の市民がライフステージに応じた健（検）診等を受診し、自身の健康状態を把握するとともに、健康の維持・増進を図れるように取り組む。</p> <p>5. 企業や団体と連携した健幸づくり活動「歩く」ことの推進 各種団体や企業と連携し、ウォーキングの開催や健康に関する情報発信に取り組むとともに、団体や職域における従業員等の健幸づくりとして歩くこと等を推進する。</p> <p>8. 公園やスポーツ施設等の健康増進拠点としての活用 公園の健康遊具やスポーツ施設を活用したイベントを開催するなど気軽に運動に参加できる拠点づくりに取り組む。</p> <p>9. 安全で安心な健康増進環境の整備 健康増進活動として安全に歩くことを促進できるよう歩行環境の整備に取り組む。また、市民が安心・安全に暮らせるよう、健康に不安があるなど身近な悩みへの相談対応に取り組む。</p>	<p>御意見は「スマートウェルネスあさひかわプラン（案）」で示した内容と概ね同じであり、同案に御賛同いただいたものと考えます。</p>